

“美心”

(ちむぐくる)



独立行政法人国立病院機構
沖縄病院



〒901-2214
沖縄県宜野湾市我如古3丁目20番14号
TEL : 098(898)2121
FAX : 098(898)6433 (地域連携室直通)

2023年10月 No.114 発行/地域医療連携室



沖縄病院 中庭より

キントラノオ【花言葉：誠実な愛情・飾らない心・豪華】

【沖縄病院 診療科の案内】

- | | | | | |
|----------|--------|--------|----------|-----------------|
| ★肺がんセンター | ★外 科 | ★呼吸器内科 | ★消化器一般内科 | ★脳・神経・筋疾患研究センター |
| ★脳神経内科 | ★緩和医療科 | ★放射線科 | ★麻酔科 | ★病理診断科 |

基本理念

患者さまの立場を尊重し
高度で良質の医療を提供します

運営方針

1. 政策医療を担いつつ、質の高い適切な医療サービスの提供
2. 患者さまの視点に立った、温かく思いやりのある接遇
3. 健全な経営基盤の確立
4. 安心して療養に専念できる快適な環境
5. 臨床研究の活性化と臨床教育・研修機能の充実と人材育成

【沖縄病院 病床数：300床】

- ★がん専門病棟：60床
- ★神経筋病棟：145床
- ★緩和ケア病棟：25床
- ★結核病床：30床
- ★地域包括ケア病棟：40床

【目次】

- 1 ページ：中庭風景
- 2 ページ：地域包括ケア病棟の再スタートに際して
- 4 ページ：新戦力紹介
- 5 ページ：地域包括ケア病棟運用再開に向けて
- 6 ページ：連携医療機関紹介

地域包括ケア病棟の再スタートに向けて

国立病院機構沖縄病院では4年前から地域包括ケア病棟をスタートしましたが、新型コロナの診療のために、地域包括病床はしばらく閉鎖を余儀なくされてきました。新型コロナが落ち着いてきたので、2023年10月から改めて地域包括ケア病棟の再スタートとなりました。

我が国では1975年頃から少子高齢化が進み、病院の高齢者入院割合が増加しています。65歳以上の患者が73.2% (厚生労働省)であり、2040年に向けて今後も入院患者の高齢化が急激に進むと考えられます。高齢者の入院に見合う病床数が増えない現状では、各地の病院で満床状態を乗り越えて、入院待ちが常態化する可能性があります。新型コロナだけでも、すぐに入院できない非常事態が生じたのですから、今後医療需要が増えることは容易に想像できます。

そこで我が国では地域包括医療、在宅医療を充実させて、老健、特養、老人ホームなどの施設も増やして入院患者を少なく保つ方法を模索しています。この地域包括ケアによって入院しても急性期を乗り切ったら早めに地域包括病棟でリハビリをして、体調を安定させて、自宅あるいは施設に帰っていただき、できるだけ再入院しないことが期待されます。

3大死因の癌、心疾患、脳血管疾患に対して、本来は予防医学的に、日常の運動療法、食事療法、禁煙、節酒が大切なのですが、沖縄は鉄道がなく、車社会であり土地の起伏が激しいため、自転車、歩行がほとんどなされていません。



国立病院機構 沖縄病院 総合診療部長 樋口 大介

また、昔は魚、野菜が中心の食事だったのが、ファーストフードや加工食品、肉缶詰など高カロリー、高脂質食を摂取する機会が増えています。最近では他県に頼っている野菜(台風6号直後にスーパーの野菜が消失したのが衝撃的でした。)も流通が減り、高価になり十分に購入できなくなっているのではないのでしょうか。

沖縄県の平均寿命順位は国内で急落(男性43位、女性16位:2022年厚労省)しているのは、この運動不足、食生活が確実に関わっていて、他県よりも沖縄県は生活習慣病に対して極めて無防備な状況です。一つの病院の地域包括ケア病棟ができることは極わずかですが、高齢化社会がもたらす入院過剰事態に対する自覚をもって、入院時の全身のチェックと必要なりハビリテーション、退院後の一人一人の患者の生活改善と退院後のサポートを地道に行っていきます。

当院は総合病院ではないですが、琉大から整形外科(3名:内常勤1名)、内分泌内科、皮膚科、放射線治療科(常勤1名)の先生方に応援していただき、牧港中央病院からも循環器内科外来の応援、浦添総合病院から乳腺、甲状腺外来を応援していただき心から感謝しております。先生方との連携により、地域包括ケア病棟も機能していくと考えています。当院の理学療法士6名、作業療法士4名、言語聴覚士2名で、リハビリ室から病棟を駆け回りながらリハビリを行っています。地域連携室も一人一人の患者背景を詳細に捉えて取り組んでいます。沖縄病院の地域包括ケア病棟を今後ともよろしく願いいたします。

令和5年9月3日

国立沖縄病院 総合診療部長 樋口 大介

新戦力紹介



糖尿病外来



琉球大学
医学部附属病院
第2内科
与那覇 健

2023年4月より火曜日の午後に内科外来を担当しています琉球大学病院第二内科(内分泌代謝・糖尿病グループ)所属の与那覇 健と言います。

糖尿病を中心に高血圧や高コレステロール血症、ホルモン疾患を担当しております。

糖尿病は高血圧や高コレステロール血症と並んで生活習慣病の1つとして知られています。健診で血糖の異常を指摘されたことのある方も多いかと思いますが、糖尿病は他の病気と違い、初めの頃は目立った症状もないため受診や治療の継続が難しい病気です。ただし、血糖が高い状態を放置してしまうと、目や腎臓、神経の病気に繋がるだけでなく、血管が硬くなり脳や心臓の病気を起こしやすくなってしまいます。そのためしっかりと血糖値を下げ糖尿病の治療を継続していくことが重要になります。

糖尿病の治療は生活習慣の改善からお薬(飲み薬や注射)など多岐に渡ります。一人一人の患者様に合った治療法を一緒に考えていければと思いますので、これからどうぞよろしくお願いいたします。

呼吸器内科外来

私は今年の7月に呼吸器内科に赴任しました。

科内の先生との会話の一つ一つが勉強になることばかりで、外科の先生や病理の先生、放射線科の先生とのやりとりも新鮮で、早くいいdiscussionができるようになりたいです。抱負としては、11年目の医師として求められる水準にまずは達すること、今はおそらくほとんどの分野で達していないので、それが喫緊の課題です。

もともとは肺癌が一番興味がありましたが、県立南部医療センターでは体感的にびまん性肺疾患が大半だったので、苦手分野ですが今は少し興味が沸いています。

ここからは蛇足ですが、県内の三次医療機関、特に集中治療科を有する病院における呼吸器内科のマンパワー不足が深刻で、呼吸器疾患のcritical caseの診断・治療が集中治療科の先生に依存しているように思います。

当院のような質の高い医療が広く行きわたり県民に還元できるように、微力ながら貢献したいです。



比嘉 真理子

地域包括ケア病棟 運用再開にむけて



地域包括ケア病棟師長 田之上 美紀



沖縄病院は、2019年7月地域包括ケア病棟として40床でスタートしました。スタートしてまもなくCOVID-19感染症流行に伴い、2020年6月には地域包括ケア病棟を閉鎖し、沖縄県COVID-19感染症の重点医療機関として中等症患者の受け入れを開始しました。それから3年の月日を経て、COVID-19感染症の取り扱いが2023年5月8日には「2類相当」から「5類」に見直すことが決定されました。これを機に令和5年10月に地域包括ケア病棟の再開が決まり準備を進めてまいりました。

地域包括ケア病棟では、退院後の患者の生活をイメージし、一人ひとりの生活を支える看護を提供することが求められます。そのため、多職種一丸となり、患者の価値観を尊重したその人らしさを支えるケアを目指しています。入院期間60日を限度とした中で、心身の回復、患者が自分らしい生活を過ごせ、安心して在宅に帰れるように医師、看護師、リハビリスタッフ等の多職種と連携、共働り医療と生活の支援を行っているところです。社会資源の知識を持ち、地域との調整・連携が図れる看護師育成に注力しつつ、患者・家族が安心できる看護が展開できるようスタッフ一同努力してまいります。

沖縄病院地域包括ケア病棟を今後ともよろしく願っています。



沖縄病院はコロナ禍において、令和2年から地域包括ケア病棟をコロナ病棟へ変換し、重点医療機関として運用してきました。3年間続いたコロナ禍もようやく収束の兆しが見え、令和5年5月には、「5類」への移行が示されました。いよいよ10月に、地域包括ケア病棟の運用再開の運びとなりました。

その他ご相談がございましたら、ご一報いただきますようお願いいたします。

★ご相談・お問い合わせ先★

独立行政法人国立病院機構 沖縄病院 地域医療連携室

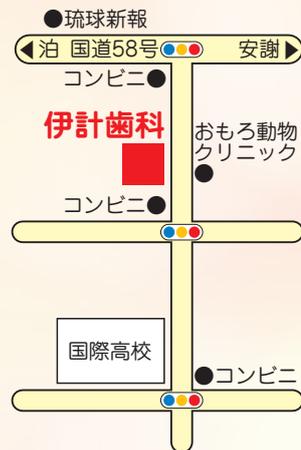
TEL：098-898-2121(代表)

FAX：098-898-6433(地域医療連携室)



伊計 歯科

沖縄病院と連携していただいている
医療機関をご紹介します



伊計歯科院長
伊 計 真智子

- ◆所在地 / 那覇市天久1-27-20
- ◆電話番号 / 098-862-3950
- ◆院長 / 伊計真智子(歯科医師・産業歯科医・衛生検査技師)
- ◆歯科助手 / 2名
- ◆診療ご案内 / 月・火・水・金・土
午前 9:00~13:00
午後 訪問診療
- ◆休診日 / 木曜・日曜・祝祭日

伊計歯科は首里より那覇新都心に移転開業し20年ほどになりました。成人・小児の歯科診療をおこなっておりミニマムインターベーション(最小限侵襲の治療)を心がけております。私の中ではミニマムな治療の延長線上に歯周内科治療とドックスベストセメント療法(保険外治療)があります。20年程前歯周内科療法に出会い、口の中の細菌を顕微鏡で確認することで歯周病に薬等を使う内科的治療も行っています。歯周内科学会が普段から細菌感染対策をにかけているため、コロナ下でも戸惑うことなく、日常とほぼ変わらない診療態勢でいられたのは良かったと思います。伊計歯科は、歯科では珍しい女性専用個室を備えております。近年はお医者様から手術前にお口のケアをしてくるように言われた患者様・主治医から口腔ケアをすすめられた高齢者の方が来院されることも珍しくありません。ご自分のお口の健康に関心を持たれる方が多数おられます。今後は施設訪問で口腔ケアに積極的に関わっていく機会を増やしたく思います。地域の医療機関・介護施設と連携し、多く方の歯科治療・口腔ケアに関していければ幸いです。今後とも皆様のご指導よろしくお願い申し上げます。

